読　書　に　つ　い　て

北区・上町支部
(たにもと耳鼻咽喉科・外科クリニック)　**相良　有一**

私は読書が苦手だ。中学生のころから読書の大切さは何度も聞かされていたが，なかなか読書の面白さを体感できず，いまだに読書に熱中できないでいる。

現在の私の読書に対する思いを書いてみたい。

1．はじめに

私は高校2年の時休学した。読書の時間は十分できた。どうしてよいのかわからなかった。親しくしていた友人の家に文庫本が沢山あった。夏目漱石や武者小路実篤の本を借りて少し読んだことがある。読書の方法も先輩達に何人も尋ねたこともあるが，的確なアドバイスはいただけなかった。

高校の数学の担当の先生があるとき「勉強の中心は国語だ，本をたくさん読むことだ」といわれたことが印象に残っている。

その後も読書の大切さは理解しているがなかなかできないまま今日にいたっている。

2～3年前から診療所を人に譲り，セミ引退の状態で読書の時間も十分とれるようになった。遅ればせながら読書しようと努めている。それでも1カ月に1冊程度の超遅読である。

2．読書家の友人

私の小学生時代からの友人で床屋さんがいる。彼がなかなかの読書家で，鹿児島市立図書館から一度に4～5冊の本を借りてきて読んでいる。いろいろな分野の本を読んでいるが，とりわけ，歴史ものが好みで古事記や日本書紀をはじめ，梅原 猛の書籍なども読んでいるようだ。月に1度散髪に行ったとき借りてきている本をのぞき見して，刺激を受けていた。私は彼の10分の1もよんでいない。

3．読書のすゝめ

最近偶然に本屋で斎藤 孝氏の「読書する人だけがたどりつける場所」という本に出合った。

高校生のころからさがしもとめていた本だ。ただ当時は当然この本はまだない。中学生高校生に対する読書の勧めとしてよい指導書であると思う。

改めて川端康成，太宰 治，谷崎潤一郎の本など読んでみたいと考えている。文豪の方々の読書の量は大変なものらしい。その方々の文章にふれることで，その背後の情報をもらえることになるという。また気になっている作家といえば金閣寺を書いた三島由紀夫，しばしばノーベル賞候補として名前の挙がる村上春樹など，いくら時間があっても足りないくらいだ。

4．よしの相良外科の朝礼での南風録，天声人語の輪読

どこかで一度書いているが，昭和58年に吉野相良外科を開業してから約30年間毎日朝礼で南風録を，1日おきに天声人語を職員みんな交代で声を出して読むことをつづけた。

当時私は鹿児島市医師会看護学校の講師をしており，学生達が読解力のないのにこころをいため，せめて自院の学生たちだけでも読解力を付けてもらいたいと考えて始めた。どれだけ読解力が付いたか心もとないが，少なくとも私自身のためには役立ったのではないかと考えている。

毎日わずか2～3分の音読ではあるがつづけ

ることで有意義なことだったと考えている。

このコラムはあらゆる世の中の事象を取り上げてあり，筆者の意見を述べておられる。このコラムを読むことで関心の世界が広がり，かつ，自分の考えも持つようになると思う。このコラムを書いておられる方々はどんな人だろうと想像したり，各社とも少なくとも3人から5人で回り持ちで書いておられるのではないかと思う。少なくとも一人では毎日は書けない。またあらゆるジャンルの事に関心を持たないと書けない。また行間を読む習慣も付いた。自分のために随分役立っているのではないかと思うようになった。

今もこの欄は真っ先に目を通すようにしている。

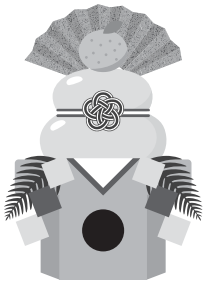
5．速読と遅読

本をたくさん読む人は読むスピードが著しく早いと思う。いろいろ速読のknow howを書いた本も沢山ある。それに引き換え私は著しい遅読である。決して精読ではない。1ページを読むのに2〜3分ならまだしも5分以上かかることも多い。1行よんでまた同じ行を読んでいることもある。かといって内容をしっかり把握しているわけでもない。

ありふれたやさしい文章でも同じである。200〜300ページ位の本でも1週間かかることが多い。最近少し要領がわかってきた。

本を手に取ったらまずタイトルを読む。次いで目次にサラーと目を通す，何を言わんとしているのか見当をつける。面白そうなところから読む。全部をとうして読むことは少ない。これでもよいのかなと考えている。

6．やっと読書の方向がみえてきた

読書を難しく考えることはない。面白そうな関心のあるものから読む。新聞などで話題となっている本にも目を向け，気に入ったら購入して読む。

昔からの文芸作品も色々読んでみたいと思う。哲学や倫理の本なども無理をしないで読むという方針でよいのかなと思っている。